

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500259
法人名	医療法人社団 宗正会
事業所名	グループホームすまいる
所在地	福岡県福津市高平11-15
自己評価作成日	平成23年12月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月9日	評価結果確定日	平成24年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの尊厳を大切にしながら、利用者様の個々の能力を把握し、家庭的な環境の中で毎日を活気があり楽しく穏やかに過ごして頂けるよう職員一同取り組んでいます。『笑顔』と『住まい』という思いが込められたグループホームすまいるは開設して10年が経過しました。地域の方々にも広く知って頂いています。笑顔いっぱいの毎日を過ごして頂けるよう、小さな子供達の来訪やユーモア溢れる会話、年間行事も色々組み入れながら利用者の方々にとっても喜んでいただけるよう心掛けて支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての和を基調とした建物で、広い中庭を見ながら食事をする事ができ、縁側に座って庭を觀賞しながらくつろぐことができる環境である。また利用者と家族、職員でバーベキューをしたり、日当たりが強すぎる場所には家族によりゴーヤ簾が作られたりと、中庭が憩いの場となっている。庭には四季折々の木々が植えられており、梅の木は花を觀賞した後は実を楽しみ、皆で収穫して梅干や梅酒造りを行い、食卓にあがる事を楽しみとしている。職員が生き活きと働けるよう研修、資格取得、休暇、福利厚生など充実かつ協力的な職場である。法人内に託児所もあり、育児休暇取得後に現場復帰した職員もあり、「安心」して仕事ができる環境が整えられている。利用者、職員はとても明るく「すまいる」であり、レクリエーションも大賑わいで、一緒に楽しんでいただのが印象的だった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『安心・安全・安楽』の理念のもと、利用者様の心身の状況に合わせ、その人らしく充実した日々を過ごす事が出来るよう、職員全員が意識して共有し実践している。	毎回ミーティング時に話し合う機会を設け、職員の意識付けを行っている。理念にある「心から笑顔が出る安心の自分」となるよう、職員も笑顔で挨拶しケアに取り組むよう心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時、地域のゴミ拾い等をしながら日常的に挨拶をかわしたり、町内会の草取りや地域の祭りである竹灯祭りへの協力・参加を積極的に行っている。また、毎月4～5回習字や貼り絵等ボランティアの方の協力があり、利用者様の楽しみになっている。	法人内の敷地を提供し、地区主催のお祭りとして竹灯祭りが10月に開催されている。お祭りを見に行く時はボランティアの協力が得られ実行されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福津市主催の認知症啓発事業にて地域の方々に向け、すまいるの日常生活・行事等を紹介し、いつでも来所頂けるよう毎年呼びかけを行っている。また、地域中学生の職業体験の受け入れも実施している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を積極的に行う事を目標に掲げている。また、内容を密度の濃いものとなるよう家族会と一緒に開催したりして工夫している。事業所の取り組み状況等報告を行い、意見をサービス向上に活かしている。	年の初めに推進会議と家族会を一緒に行い、よりよい会議になるよう工夫している。参加者は地区代表者、複数の家族、院長、部長、局長が参加している。	会議の定期的な開催と、市町村担当者、包括支援センター職員、地域住民等の継続的な参加に向けて、今後の働きかけを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のイベント等には積極的に参加・協力している。また、認知症キャラバンメイト連絡会に加入しており、月1～2回高齢者サービス課を通じて情報交換を行っている。11月には福津市内のGH職員勉強会を行い、市担当者も参加された。	市の担当者も交えたGH部会で、事例検討等の勉強会に参加している。認知症キャラバンメイト連絡会「蓮華草の会」に加入し、サポーター養成講座の講師をする等、市と連携して実施している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に抑制廃止対策委員会があり、GH職員も委員として会議等に参加している。日常の中ではスピーチロック等について職員への意識付けを行っている。玄関の施錠は、防犯の為夜間のみ行い、日中は開錠。	2ヶ月に1回、法人内の抑制廃止対策委員会が開催され、話し合われた内容は報告書を通じてGH職員に到達され共有している。法人内でスピーチロックに関するアンケートを実施し、部署別に集計を出し実態を調査しており、スピーチロックに対しての意識付けが行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。虐待について外部研修、法人・GH内研修でも職員が再確認をし、常に意識付けを行うようにしている。また、管理者は職員が相談しやすく、ストレスを溜めない環境作りに努めている。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会・研修に参加し、資料なども整えている。研修に参加していない職員にも、全体会議にて受講者が報告し、職員全体で理解を深めている。必要時に活用に向けた支援ができるような体制作りをしている。	現在、制度を活用している方はいない。法人での研修や、県・市主催の研修、GH協議会での研修など、権利擁護に関する制度について学ぶ機会は多い。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明をして契約を結んでいる。その際、不安や疑問点を確認し理解・納得を図っている。また、入所後の疑問点などは随時お答えするようにし、聞きやすい雰囲気作りにも心掛けている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見はその都度聞き、常に真摯に受け止め対応している。また、玄関に「ご意見承り箱」を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。契約時に、苦情窓口や苦情対応体制について説明している。	不定期ではあるが、今年度は家族会が3回開催されている。運営推進会議を兼ねたり、バーベキューをしたりしながら、家族との意見交換や交流を図っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や無記名アンケートを実施し職員が働きやすく生きがいを持って取り組めるよう、職員の意見を活かし環境を整えている。また、常時職員からの意見や提案が出しやすいようコミュニケーションをとっている。	月1回ミーティングを開催し、職員意見を聞く機会を設けている。また個人面談やアンケートを実施し、不満や意見、要望等を表出できるよう配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個人面談や職員管理シートにて個々の努力や実績、勤務状況の把握を行っている。また、法人内の研修も活発に行われており、各自が向上心を持って勤務できるよう努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては性別・年齢等の制限は行っていない。職員が生きがいを持って勤務できるように、資格取得の為に問題集を出したり、勤務調整を行うなど質の向上に向けて支援する体制がある。法人内に託児所を設けており、子育てしながら勤務できる環境を整えている。	年齢・性別の制限はなく、また、定年制もあるが、働く意力があれば契約更新可能となっている。職員の資格取得の為に、週1回問題集を出し、添削する等の支援を半年間にわたり実施している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部・外部の研修に積極的に参加し、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。事業所内ミーティングでは毎回議題に出し、職員への意識付けを行っている。職員は利用者様の家庭環境や生活状況によって差別することなく、日々のケアに取り組んでいる。	職員の研修だけでなく、地域の方を対象とした勉強会をコミュニティーセンターで開催している。「GHとは?」「認知症とは?」「認知症の方のかかわり方」等について説明し、高齢者の人権・啓発活動にも取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自と法人全体で計画的に研修を実施している。案内を掲示して参加を募ったり、管理者が研修への参加を促すなどし、参加の機会を確保して質の向上に努めている。受講後は報告書を記入し全職員が目を通している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入しており、勉強会や研修に参加し同業者との交流の機会を確保している。また、福津市内の全GH勉強会も実施し活発な意見交換を行っている。市主催の認知症キャラバンメイト連絡会にも積極的に参加、地域の事業者との交流も図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事や不安な事、要望等を傾聴し安心して生活を始められるよう努めている。本人の生活背景も含め、職員全員に情報を共有し、生活支援を行っている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や入居申込み時にご家族の不安や思いを聞き、またグループホームの情報も提供しご家族との意思疎通が図れるようにしている。入所後もご家族へこまめに状況を伝え安心していただけるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズも合わせ、今何が必要なのかを見極め、優先順位も考慮し対応していくよう努めている。また、あらゆるサービスの利用ができる事もお話している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に本人の心に寄り添い、人生の先輩であるという尊敬の念を持って接し、日常の関わりの中で信頼してもらえる一人の人間として、接するように心がけている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入所前・後の本人と家族の関係を熟知しながら、双方の様々な思いに寄り添い話し合いの場を持ちながら、お互いの関係を大切にしている。		
22		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係である方が来訪された際は、お茶やお菓子・椅子を居室に運びゆっくり歓談できるように雰囲気作りをしている。馴染みの家具等も持ってきて貰うようにしている。	友人が訪ねて来られたり、家族の協力で外泊したり、お墓参りに行ったりしている。市民には馴染みのある宮地獄神社が近くにあり、四季折々の花を觀賞したり御参りに行ったりしている。	

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を十分把握し、食卓の椅子の配置を調整したり、レクレーションの際には特定の利用者が孤立しないように配慮している。様々な時間に利用者同士が円滑に仲良く過ごせるように努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同事業所施設内に移られた際には、できるだけ会いにいこうとし、本人また家族に声掛けするよう心掛けている。他施設に移られた後も、本人や家族に会いに行き、お互いの近況を伝えるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者寄り添い、独り言や表情を見逃さず、思いや意向を把握し、それを職員間で共有しながらケアプランに反映させている。利用者が喜びを持って暮らし続けることが出来るよう支援している。	1対1になる入浴中など、自然な会話の中での意向を聞き逃さないようにしている。聞き取った内容は介護記録に記載し、申し送りやミーティング時に話し合い共有している。職員主導ではなく、本人本位で考えるように心がけている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は、本人・家族・関係機関等より収集し、入居後も安心して生活できるよう把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・生活チェック表等を毎日記録し、職員全員が把握することで細かな変化も見逃さないよう努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。毎月のカンファレンスにて、モニタリングや支援手順の確認を行い、3ヶ月毎に評価・見直しを行っている。	担当者会議には必ず家族が参加しており、検討内容も、具体的なケアについての話し合いが行われており有意義な会議となっている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録ファイルに、日々の様子や状態を記入して職員間で情報の共有を行っている。また、個別記録を基に介護計画見直しをしている。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、出来る限り柔軟な支援やサービスを提供できるよう取り組んでいる。困難な事が発生した場合には、法人内の他施設の意見も参考にしながらサービスの実現ができるよう支援する体制がある。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力で、習字や貼り絵を一緒にして季節ごとの作品を作り、事業所内に掲示し皆で鑑賞している。また、散歩時にはゴミ拾いセットを持参し、散歩がてら近所のゴミ拾いを行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人・家族の希望する医療機関を確認している。近接している母体医療法人との連携や、隣接して協力歯科医もあり、家族の協力を得ながら、適切な医療活用となるよう支援している。	かかりつけ医は本人及び家族の希望を尊重している。殆どの利用者が母体の医療法人を選択されている。法人に無い他科受診の場合は、家族または職員による受診支援を行っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の病院より、週1回定期的に看護師が来訪しバイタルチェックや体調の観察等を行い、場合によっては医師へ報告し医療との連携を図っている。また、それ以外でも状態の変化等あれば迅速に連絡を取っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も病院の相談員、かかりつけ医と連絡を取りながら早期退院に向け取り組んでいる。併設病院が入院先になることが多く、入院後の情報交換にもつとめている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明した上で、本人・家族の意向を確認している。入居後は身体状況に応じて主治医や関係者で協議し、チームで支援に取り組む体制作りが出来てる。	「看取りに関する同意書」を作成しており、チームとして支援を行う方針である。家族の気持ちの変化に対応できるよう、その都度、医師を交えて説明を行い、家族が納得した上で判断をいただいている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・急変時のマニュアルを作成し、職員全員が対応できる体制を作っている。また、事業所内にて定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。また、外部での救命講習にも積極的に参加している。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内にて年4回の避難訓練を実施し、例年火災に向けての訓練が中心だったが本年は大震災もあり、地震に向けての訓練も行った。また法人内の防火訓練にも参加するなど安心・安全な暮らしができるよう取り組んでいる。	事業所内での、年4回の避難訓練を実施し、消防署には届出書と報告書を提出している。母体法人がすぐ近くにあるため、災害時には心強い。備蓄品も3日分は常備している。今後の運営推進会議のメンバー構成の広がりが、災害時の連携体制の充実にも結びついていくと思います。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修は月1回の話し合いの時に随時行い法人内の研修にも参加している。スピーチロックに関しては職員同志で注意しあい、利用者一人ひとりを敬う気持ちを持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。	慣れあいではなく「人格尊重」を意識した言葉かけに留意している。人に聞かれたくない事を大きな声で言わないよう職員同士注意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に職員は利用者との会話を優先にしている。本人の思いや希望を表しやすい雰囲気作りに努め、自己決定できるように働きかけてる。また、ご家族からも本人の思いを聞き、希望に添えるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常に「利用者様第一」を念頭に置き、業務優先にならないようにしている。一人ひとりのペースを大切に、画一的なケアにならないよう注意を払い、希望に添えるよう支援してる。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝自分の好きな服を選び着てもらい洗面・整髪時は鏡の前で髪を整えてもらうよう支援している。髪どめやカチューシャをする方もおり、その人らしいおしゃれを楽しんで貰っている。理・美容は訪問サービスを利用している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の力に合わせ、声掛けしながら利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。音楽を流し、ゆったりとした雰囲気の中で食事が楽しめるようにしている。また、さりげなくサポートできる位置に職員を配置している。	柔飯やミキサー食など、一人ひとりに合った食事の形態を提供している。なるべく形ある物を食べて頂きたいという思いもあり、食事形態には個々に工夫している。ミキサー食の方でも外出時は外で食べれるよう、ホームで食事を準備し持って行き、皆と食事を楽しむことが出来るよう支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事・水分チェックをし、健康状態の把握に努めている。カロリー計算された食事を提供し、水分は食事以外でも朝の体操後・おやつ時・寝前にも出し、ココアやゆず茶など趣向をかえながら上手く摂取できるよう工夫している。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導のもと、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。隣が協力歯科医院なので、本人の希望時などは歯科医院と連絡をとった上で、必要な時は歯科受診の支援も行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表により一人ひとりの状況や排泄パターンの把握に努め、それぞれに応じたトイレ誘導を行い、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。毎日を気持ちよく過ごして頂けるように支援している。	本人のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。入院中はテープ式オムツを使用していた方が、退院後はパンツ式に変わり、今ではトイレで排泄できるようになった事例がある。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の把握を個別にしている。食材や水分量、乳製品、運動等により、出来るだけ自然な排便となるよう支援している。排便困難な方には、内科受診時医師に相談し指示をおおいでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は必ず声掛けをし、本人の希望を尊重している。職員が必ず見守り・介助をし入浴を楽しんでもらえるよう、会話も積極的にやっている。また介護チェック表に入浴した日を記入し、清潔が保たれるよう支援している。	毎日お風呂を沸かし入浴可能であるが、概ね2日に1回の割り合いで入浴している。拒否が強い場合はタイミングをずらしたり、無理強いせず次の日にまわしたりして柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごす方がほとんどだが、体調や気分によっていつでも自室にて休息できるよう見守りや声掛けを行っている。日中の活動を促し、生活リズムを整えながら夜は安心して眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に職員が必ず付き添い、医師に把握した日常の変化や異常等を報告し、直接医師より病状や薬の内容を聞き、服薬時の注意や容量の変更を全職員が把握し確実に本人が服用できるように工夫している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや昆布切り・習字・貼り絵・読書等を行い、一人ひとりの体調や状態に合わせて出来る事や役割を作り、活気ある毎日を過ごす事が出来るよう支援している。		



福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人のデサービスの車を利用し、季節の花見(桜・菖蒲・コスモス・菊)等を楽しんで頂けるように支援している。その際には戸外で食事を楽しめるようにしている。また、散歩や買い物などについても、本人の希望や状態に合わせて個別に対応している。	宗像大社や宮地嶽神社に行き、季節の花を觀賞したり、道の駅に寄って買い物したりしている。近所にコンビニエンスストアがあり、日常的に買い物に行くことができる。家族と外出し、外食して帰ってくることもある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が自分でお金を管理することは現状では難しく、他利用者とのトラブルを防ぐ為にも、家族よりお金を預かり個人別出納帳にて管理している。利用者の希望時必要に応じてお金を使えるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で事業所の電話を利用してもらい、難聴の方にはホーンを大きくして聴き取りやすいようにしている。手紙を出したい利用者がいれば支援し、毎年年賀状は全員が出せるようお手伝いしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に和風の造りで、なじみやすい雰囲気になっている。リビングでは音楽を流したり、照明も明るくなりすぎないように採光との調和を図っている。また季節の花や季節毎の飾りをして居心地よく過ごせるよう工夫している。臭いの配慮もしている。	和を基調とした造りであり、落ち着いた雰囲気がある。リビングからは中庭が見え、四季折々の木々が植えられており觀賞することができる。また、縁側に座って庭を眺めることも可能である。リビングにはソファ、和室には掘り炬燵、廊下には木製椅子、縁側と好きな場所をつくること出来る。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意見を傾聴し、その日の気分によって居心地の良い場所作りに配慮している。また、気の合う利用者同士気兼ねなくおしゃべりできるように席を近くにする等して工夫している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの物や家具を配置し、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。家族宿泊にも対応できるゆとりある居室であり、またその他にも家族が泊まれる和室もある。	和室と洋室の部屋がある。レイアウトは本人と家族が話し合い、自宅と変わらないような位置でベッドや箆箆を配置している。全ての家具は持ち込みとなっており、馴染みの物が置かれている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分からなくなる方もいるので、分かりやすく表示した紙を貼っている。利用者に混乱が生じた時は、心に寄り添い残存機能を損なわぬよう支援している。各居室は家具の配置を工夫し転倒防止に配慮している。		